

<活動の概要>

2017 年度は、新学長を迎え、大学運営メンバーや体制が変わったこと、さらに中期計画に基づき、メディアアートセンター構想、博士課程の実施、さらに社会人短期在学コースなど、重要な取組みへの着手など、新しい組織と大学運営に産業文化研究センター長として尽力した。

産業文化研究センター（RCIC）としては、新たに教育事業やイアマスが多様な卒業生を紹介する企画を開始し、それぞれにいい評価を得ている。

個人の研究に関しては、研究成果を国際メディアコミュニケーション学会で発表し、本としても出版された。（2017 年 5 月刊行）。学内プロジェクト研究も、地域活性学会で報告を行うなど、地道に成果をあげることができ、NHK やソトコトなど、大手メディアにて取り上げられる機会にも恵まれた。

---

<学内での活動>

1 産業文化研究センター（RCIC）

2017 年度業務の中で、新たな教育事業を始めた。その一環として、大垣市との連携として実験的に取り組んだ「イアマスこどもだいがく」は、イアマスの理念を小・中学生向教育に適用したものであるが、参加者（こどもや親）から一定の評価を得たことから、次年度の継続となった。

また、これまでイアマス卒業生の多様性がなかなか伝わらない中で、新たな企画として「イアマス OBOG interview」を開始した。ほぼ毎月 1 名またはグループの卒業生を選定し、在学中の活動や進路、卒業後の仕事や活動などについてイアマス教員がインタビューし、それを記事として配信した。この企画は、学内外や卒業生からも評価されており、来年度も継続していく。

産学官連携については、2017 年度もかなり多い連携事業が実施された。大学事業としての岐阜おおがきビエンナーレが本学を会場として開催され、会場設営や撤収、運営補助などを行った。また、県博物館や県職員研修所など、県の施設との新しい連携も推進した。RCIC が直にディレクションしたものであるとしては、揖斐川ワンダーピクニック（揖斐川町）での「地獄絵スタンプラリー」、岐阜県美術館の特別企画展「アートまるケット」（テーマ「ツナがり ツナがる ツナがれば」）でのワークショップや展示に加え、共同研究として「Pool Jam Expo」に向けてデバイス開発と実践を行った。このデバイスに対しては具体的なニーズも生まれ、高評価を得た。

イアマスの連携事例に関しては、例年通り 2017 連携報告書として発行した。報告書の体裁やデザインを一新、特に新たに巻頭特集を設け、連携のプロセスや関係者たちのインタビューを詳細に掲載し、連携について理解するような内容へと変えた。

## 2 研究プロジェクト

今年度は代表として2つのプロジェクト（根尾コ・クリエイションとたるてつプロジェクト）を継続的に実施した。特に根尾コ・クリエイションは、新たな拠点づくり（ジャッキーハウス）と拠点を活用した活動を開始した。また、記憶の新しい表現として開発した、導電印刷を用いて古民家の障子を使って記憶を投影する害獣戯画と新しいインタラクションは、高い評価を得ることができた。また、メディア（NHK、ソトコト、事業構想）でも多く取り上げられた。

たるてつプロジェクトは、鉄道プロジェクトを土台とした取り組みであり、明和電機の土佐信道さんをゲストに迎え、新しいライブ空間をつくり、成果をあげることができた。これまでの鉄道プロジェクトの成果は、地域活性学会にて発表した。また、成果の一部は、論文として地域活性研究にて掲載予定である。

また、分担者として参加している、TOY プロジェクト（クワクボリョウタ 准教授代表）では、岐阜県博物館と連携とし、博物館視察を複数回実施し、博物館の新しい表現についてプロジェクトメンバーと博物館関係者によるトークセッションをIAMAS2017 開催した。その時の成果は、博物館展示にも一部応用されている。

---

### <個人研究や学外での活動>

#### 1 コミュニティラジオの調査と成果の公開

「日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」（科研基盤 B）での調査をもとに、成果の一部を国際メディアコミュニケーション学会（査読付き）で発表した。また、成果は『日本のコミュニティ放送 基幹放送の理想と現実の間（はざま）で』（晃洋書房）として、2017年5月に刊行した。

2017年度から新たに「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」（科研基盤 C 代表者）を開始した。福島や宮城でコミュニティラジオ局の訪問調査を行った。また、奄美大島の宇検村と名瀬市でも、ラジオ局と現地住民へのヒアリング調査を実施した。成果の一部は、国際学会 IAMCR2018(米国)にて発表が決まっている。

#### 2 その他、調査や活動

継続的に保護猫活動を行っている。2017年12月には、神戸 KIITO にて三千人規模のイベントを実施した。また、保護猫を対象としたソーシャルインベションについての研究を日本 NPO 学会（2018年6月東京）にて発表する

予定である。

その他、専門に関して様々な機会での発表や講演を行った。

- 岐阜県研修「人口減少時代における地域コミュニティ～多様な地域と向き合う大学の役割を考える～」(関) 2017.10 (講師)
- JCBA 東海協議会「新しいラジオの時代に向けて」(熱海) 2017 (講師)
- 台湾ワークショップ「IAMAS 流価値の創造」(台北) 2017 (スピーカー)
- 一宮商工会議所女性会「地域の資産 x クリエイティブ」(一宮) 2017.9 (講師)
- 放送セミナーシリーズ「ラジオを考える」第2回 AM・FM ラジオの魅力発見～ 東海総合通信局/東海情報通信懇談会主催 2017 (ゲストスピーカー)
- 清流の国ぎふ暮らしセミナー「ぎふのアカデミーがクリエイトする里山のミライ」岐阜県主催 (大阪) 2017 (ゲストスピーカー)
- 第13回日本放送文化対象中部北陸地区ラジオ審査 2017 (審査員)

### 3 学会発表や著書

金山智子『日本のコミュニティ放送—理想と現実の間で』松浦さと子編

「第1章制度的プレッシャーの視座からみる防災の役割」 pp. 2-17

「第8章奄美群島のコミュニティラジオの文化装置的役割」 pp. 106-111

「第13章日本の放送行政、とくに基幹放送のあり方に問いかける」

pp. 190-195, 晃洋書房, 2017

Tomoko Kanayama & Tsutomu Kanayama “Community Radio Policy in Japan-Current Status and Future,” (Peer-reviewed)

IAMCR Conference 2017, 2017 July (Cartagena, Colombia)

金山智子, 平林真実「移動体メディアとしてのローカル鉄道の新しい活用

実践」地域活性学会第8回研究大会(島根県浜田町) 地域活性学会第

8回研究大会(長野県小布施町) 2017年9月

金山智子「ローカル鉄道の新しい活用の可能性に関する事例研究」地域活性研究, Vol. 9 (2018年5月発行)

### 4 研究助成

「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」

(科研基盤C 代表者)

### 5 その他 社会活動など

一社) 社会情報学会 評議員 および 編集委員

公益財団法人プランジャパン 理事

特定非営利活動法人地域魅力 監事

愛知県立芸術大学 非常勤講師（博士生外部指導教員）

愛知淑徳大学 非常勤講師

名古屋市新たな文化施策推進体制の検討会議委員

ZIP-FM 番組審議委員会委員（委員長代理）

さかの映像祭実行委員会委員（聾啞者の映画）および映画祭審査委員